

# 人生とは偶然の連続である



上野那美

産業技術総合研究所 材料・化学領域  
[305-8565] つくば市東1-1-1  
主任研究員、博士（理学）.  
専門は分子分光学.

人生って何が起こるのかわからないな、と思いませんか？ 私は思います。

まずはこのような機会をいただきましたことに心よりお礼申し上げます。まだ経験の浅い私が……という戸惑いもございますが、貴重な機会をいただいたことを大変ありがたく思っております。僣越ながら本日は冒頭の点について、これまでの経験を通じて感じてきたことをお話しできればと思います。

大阪に生まれ育った私は、地元を離れて暮らすことなど想像しておりませんでした。しかし実際には初めての一人暮らしは海外、しかも住居も定まっていない状態での渡航でした。ようやく生活の基盤が整い始めたかと思えば、新型コロナウイルスの流行で外出すら制限される日々。さらに近隣地域では戦争が勃発し、日本人向けの緊急退避が報じられる状況にも直面しました。そうした混乱の中、帰国し、その後、ポスドク、助教を経て現在の職に至っております。現在は産総研にて樹脂・ゴム材料を対象に分光分析と機械学習を組み合わせた仕事に従事しています。

振り返ればその時々々の環境やご縁に導かれながら歩んできた側面が大きく、その積み重ねが現在の研究活動に繋がっています。機械学習との出会いも偶然でした。学生時代、指導教員に請われ参加したセミナーがきっかけです。当初は特別な関心もなく漫然と参加したのですが、その内容に興味をもち、あれこれ学びを深める中でさまざまな研究者の方と出会ったり、ご指導いただける機会を得たりと、現在では研究に欠かせない技術となっています。高分子材料の研究に携わるようになった経緯も、当初から計画していたものではありませんでした。帰国後にご縁をいただいた研究室で研究を始めましたが、その起点を辿ると学生時代に後輩の実験に付き添った経験に行き着きます。そのときはまったく高分子を扱っていなかったにもかかわらず、です。

こうした経験を振り返ると、当初は研究とは無関係に思えた出来事が、後になって重要な意味をもつことに気づきます。私の研究の軸は分光分析にあります。それ以外は必ずしも意図して選んではいません。その背景には指導教員の異動や自身の休学など、いくつも

の偶然が重なり合い、何か一つでも違えば現在の研究者としての自分はなかったのだと思います。その時々で出会ったものに向き合い専心した結果、今があるのだと思います。この性質は日常にも表れています。実は最近、指を骨折しました。その原因は自分の関心のあるものに意識が集中し過ぎたことにあります。良くも悪くも私は「気になったものに突き進む」傾向が強いのだと実感しました。しかし同時に、その性質こそがこれまでの偶然をつないできた要因であると思います。興味をもったものに素直に近づいた結果、新しい分野や人との出会いが生まれてきました。

その姿勢は最初の海外滞在ですで見られていたと今回改めて気が付きました。当時周囲の方々からは「行かなくてもよいのでは？」と心配の言葉も貰いました。今思えば、一人暮らしの経験もなく、深刻な感染状況の地域へ渡航するとなれば、当然の反応です。しかし、当時の私は、ポスドクとして研究できる機会に意識が向いており、その他の不安を十分に想像できていませんでした。少々無謀だったかもしれませんが、そのくらい思い切ってぶつかって見たことはよい経験になりました。学生時代に『できない理由を考えるよりやれ』と言葉をかけられましたが今になってその大切さを感じます。

人生の中で起こる出来事はその時点では意味をもたないように見えますが、後から振り返るとその連なりが現在の自分を形作っています。遠回りに思えた経験が、実は最短経路につながっていたことに気づくこともあります。

皆様に一つお伝えするとすれば、在り来たりですが、「今の自分には関係ない」と思えることにも、一度は触れてみてほしいということです。どこに次のご縁や学びの種があるのかはその時にはわかりません。研究生生活は長い道のりで、私自身も未だ入り口に立っています。思いどおりにいかないこともあります。その経験が、いつか思いがけない形で自分の糧になります。「遠回りだ」と思っていた経験が自分の土台となるのです。皆様にも、その時々々の出会いや経験を大切にしながら、予想どおりにいかない出来事さえも楽しむくらいの気持ちで、研究生生活を歩んでいただければ幸いです。